

## 原稿の書き方

### 【論文の構成】

論文の構成は以下の通りとする。但し電子投稿時には、原稿、図の説明、図、表を全て一つのPDFファイルとして統合し、投稿用紙のPDFファイルと共に送付する。

#### (1) 原著論文

##### a. 和文論文

表題、著者名、所属機関名、英文表題、英文著者名、英文要約、英文キーワード、本文、要約、謝辞、文献、図、表などを含むものとする。本文は原則として、緒言（見出しはつけない）、材料および方法、結果、考察の順とする。原稿では英文表題、英文著者名、英文要約および英文キーワードを最初のページに書き、2ページ以降に和文表題、和文著者名、本文、要約、謝辞、文献をページを改めずに続けて書く。図の説明、図、表はそれぞれ別ファイルにして作成する。和文所属機関名、英文所属機関名および同住所ならびに連絡先は2ページ目の脚注に書く。

##### b. 英文論文

英文表題、英文著者名、英文要約 (Abstract)、英文キーワード、本文、謝辞、文献、和文表題、和文著者名、和文要約、図、表などを含むものとする。本文は原則として Introduction (見出しはつけない)、Materials and Methods, Results, Discussion の順とする。原稿では英文表題、英文著者名、英文要約、英文キーワード、本文、謝辞、文献を続けて書き、ページを改めて和文表題、和文著者名、和文要約を1ページにまとめて書く。図の説明、図、表はそれぞれ別ファイルにして作成する。英文所属機関名および同住所ならびに連絡先 (Corresponding author) は1ページ目の脚注に書く。

#### (2) 短報

書き方は原著論文に準じ、表題、著者名、

(和文のときは英文表題および英文著者名もつける)、英文要約、英文キーワード、本文、謝辞、文献、図、表などを含むものとする。和文の要約は含まない。本文には緒言、材料および方法、結果、考察などの見出しはつけない。和文論文では和文所属機関名、英文所属機関名および同住所を2ページ目の脚注に、また英文論文では英文所属機関名および同住所を1ページ目の脚注に書く。短報は刷り上がりのページ数で4ページを超えてはならない[1ページあたりの字数は、2400字(英文では700単語)程度として計算する。また、図表は3枚以内とし1つを400字(英文では200単語)程度として計算する]。

#### (3) 資料

資料の書き方は原著論文に準ずる。ただし、刷り上がりのページ数は原則として6ページ以内とする。

### 【文章】

A4 判縦用紙に1ページ27行程度の横書きとし、各ページの周囲には30 mm程度の余白を設ける。原稿にはページ番号および通し行番号をつける。

### 【表題】

簡潔な表現とする。原則として副題はつけない。継続報文であることを表したい場合には、脚注に共通表題および連続番号を記す。

例

コイのナイアシン要求量<sup>1</sup>

<sup>1</sup> コイのビタミン要求量に関する研究-2

### 【著者名】

連名のときは、和文では著者名を「・」で連ねる。英文では、2人の場合は「and」で結ぶが、3名以上のときは著者名を「,」で連ね、最後は「and」で結ぶ。英文の順序は名 (first name)、姓 (family name) の順とする。姓の2番目以降の字はスモールキャピタルとする。

### 【所属機関名】

所属機関名は和文論文では2ページ目、英文論文では1 ページ目の脚注に記入する。和文論文では、和文所属機関の次に、英文所属機関名および同住所を( )をつけて書く。英文論文では英文所属機関名および同住所を( )をつけず、省略しないで書く。著者が複数の所属からなる場合は、和文および英文論文とも著者名の右肩と、脚注の所属名の左肩に「<sup>1</sup>」, 「<sup>2</sup>」をつけて連ねる。

### 【ランニングタイトル】

和文論文では和文で20字以内、英文論文では英文で50字(スペースを含む)以内の略題を投稿用紙の所定の箇所に記入する。

### 【キーワード】

和文、英文論文とも英語のキーワード(索引語)を英文要約の後に記入する。キーワードは4語以内とし、主要生物名を最初におく。1字目をキャピタルとし、「;」で連ねる。投稿用紙の所定の箇所にも記入する。

### 【要約】

原著論文および資料の英文要約は200語以内、和文要約は400字以内で作成する。短報の英文要約は100語以内とする。図表や文献の引用はしない。英文要約、和文要約および本文の内容をよく一致させる。

### 【文献】

引用した文献は一括して末尾の文献の項に集め、著者名アルファベット順に配列する。

(1) 文献記載の順序と様式は次のようにする。また、日本語による論文において、和文を引用する場合も日本語表記の後に、[ ] 内に英語による表記を加える。ただし、英語表題の無い日本語の文献を引用する場合は不要。

#### a. 雑誌

著者名(年号)表題. 雑誌名, 巻, 引用初ページ-終ページ.

#### 例1

Igarashi, M. (1989) Effect of oxolinic acid on fecal microflora of goldfish. *Nippon Suisan Gakkaishi*, **63**, 345-350 (in Japanese).

#### 例2

酒井明久・矢田 崇・井口恵一郎(2013) 琵琶湖におけるアユ仔稚魚の体長組成および成長履歴の地域差. 水産増殖, **61**, 253-259. [Sakai, A., T. Yada and K. Iguchi (2013) Regional variation of length composition and growth history of larval and juvenile ayu *Plecoglossus altivelis altivelis* in Lake Biwa. *Aquacult. Sci.*, **61**, 253-259 (in Japanese with English abstract).]

#### 例3

Wolters, W. R., G. S. Libey and C. L. Crisman (1975) Effect of triploidy on growth and gonad development of channel catfish. *J. Fish. Res. Board Can.*, **32**, 341-346.

#### b. 単行本

単著者の場合

著者名(年号)書籍の題名. 発行所, 発行地, 引用ページ.

分担共著者の場合

著者名(年号)表題. 書籍の題名(編者), 発行所, 発行地, 引用ページ.

#### 例1

能勢健嗣(1973) 仔魚用生物餌料. 養魚飼料学(橋本芳郎編), 恒星社厚生閣, 東京, pp. 255-263.

#### 例2

Balarin, J. D. and R. D. Haller (1982) The intensive culture of tilapia in tanks, raceway and cages. In "Recent Advances in Aquaculture" (ed. by J. F. Miur and R. J. Robert), Westview Press, Boulder, pp. 265-355.

#### c. インターネット上に公開されている情報

著者名(年号)引用したウェブサイトのタイトル.

URL, アクセス年月日.

例1

環境省(2012)生物多様性国家戦略2012-2020の閣議決定について.  
http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15758, 2013年9月10日. [Ministry of Environment, Japan (2012) The national biodiversity strategy of Japan 2012-2020. http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15758, accessed on 10 Sep. 2013 (in Japanese).]

例2

Bates, B., M. Maechler and B. Bolker (2012) lme4: linear mixed-effects models using Eigen and Eigen. http://lme4.r-forge.r-project.org., accessed on 14 Oct. 2014.

- (2) 著者名は和文のものは姓名をそのまま書き、連名は「・」で連ねる。欧文のものは姓 (family name) を普通字体で先に書き, 「,」で区切った後に名を頭文字で記す。欧文で連名のときは2番目の著者から名(頭文字)を先に書き, 姓を後に書く。著者が2名のときは「and」で結び, 3名以上のときは「,」で連ね, 最後は「and」で結ぶ。
- (3) 欧文の場合, 雑誌名は略記してイタリックとする。ただし意味が不明になる場合には略さない。

例

*Aquaculture; Bull. Jpn. Soc. Sci. Fish.; Copeia; Fish. Res.; Fish. Sci.; Mar. Biol.; Suisanzoshoku; Nippon Suisan Gakkaishi*

- (4) 年号は( )で囲み, 論文表題を続ける。
- (5) 雑誌は原則として巻のみをゴシックで記す。巻がなく号だけの雑誌の場合には「号」のみをゴシックで記す。ただし, 同巻で通しページを採用していない雑誌の場合は, 巻(号)を記す。
- (6) 単行本の場合, 引用ページは, 1ページのみの時は「p. 3」, 複数ページの時は「pp. 15-

20」のように記す。全ページ引用の場合は「105 pp.」のようにする。

- (7) 続いて引用する同一著者名は「-」や「同上」のように略してはならない。
- (8) 訳書の場合は原著者名を著者名とし, 書名に続けて「(山下三郎訳)」のように訳者名を( )内に入れる。
- (9) 私信, 未発表, 学会講演要旨, シンポジウム要旨, 卒業論文, 修士論文などは記載しない。
- (10) 本文の引用箇所には, 「(渡辺 1988)」, 「(渡辺・山口 2000)」, 「(渡辺ら 1999)」, 「(Trust 1996)」, 「(Trust and Chumlong 1996)」, 「(Trust et al. 1997)」のように記し, 複数の文献を引用する際は「(Schluter et al. 1989; Raffaelli and Hawkins 1996; McLusky 1999, 2001)」, 「(Schluster 1989, 1992; McLusky 1999)」, 「(Watson 1968a, 1968b; Smith et al. 1998a, 2008a)」のように公表年代順に記す。「et al.」はイタリックとはしない。

【図表】

- (1) 図および表は英文で作成し, 大きさはA4判とする。番号は「Fig. 1」「Table 5」のようにし, 原則として1図1枚, 1表1枚とする。図表の挿入箇所は本文の右辺余白に赤で指定する。
- (2) 表の説明はそれぞれの表の上に書き, 説明文の終わりに「.」を打たない。
- (3) 表の一番上の線は二重線とし, 項目以外の線はなるべく省略する。原則として縦線を使用しない。
- (4) 図の説明文は図とは別ページにしてまとめて書く。文の終わりに「.」を打つ。
- (5) 図の余白部には図の番号, 著者名, 図の希望縮尺率を明示する。図の縮尺率は, 希望どおりになるとは限らない。
- (6) 写真は原則として図と同じ扱いとする。コントラストのはっきりしたものを使用する。カラー写真を使用する場合は, 投稿用紙の所定の欄に明記する。但し, そのときは別途料金がかかる。

## 【単位および記号】

単位の記載は SI 単位を尊重し、かつ、量記号(容積を表す *l* のみ)はイタリックとする。略記するものは複数でも「s」を付けない。

### 凡例

長さ・面積・容積:m, cm, mm,  $\mu\text{m}$ , nm,  $\text{m}^2$ ,  $\text{cm}^2$ ,  $\text{mm}^2$ ,  $\mu\text{l}$ , ml, l, kl,  $\text{m}^3$ ,  $\text{cm}^3$ ,  $\text{mm}^3$

質量:ng,  $\mu\text{g}$ , mg, g, kg, t, Da, kDa

時間:s, min, h または秒, 分, 時間

温度:英文中は $^{\circ}\text{C}$  で作成したもの( $^{\circ}\text{C}$ ), 邦文中では $^{\circ}\text{C}$ , または K

物質の量:pmol, nmol,  $\mu\text{mol}$ , mmol, mol

濃度:nM,  $\mu\text{M}$ , mM, M, N (スモールキャピタル), %, ‰, ppm, ppb

力:dyn, N, gw, kgw

仕事・エネルギー・熱量:erg, eV, J, cal, kcal

圧力:Pa, mmHg, atm, bar

電気: $\Omega$ , V, W, mA, A, Hz

光:cd, lx, lm,  $\text{cd}/\text{m}^2$

音:Hz, kHz, MHz,  $\mu\text{bar}$ , dB

速度: $\text{cm}/\text{s}$ ,  $\text{m}/\text{s}$ , kt,  $\text{rad}/\text{s}$

放射能:dpm, cps, cpm, mBq, Bq, Gy, kGy, mSv, R, kR

回転:rpm, cycle

その他:eq,  $\times\text{g}$ , S (Svedberg)

## 【生物名】

和文論文では標準和名をカタカナで書いた後に学名をイタリックで続ける。英文論文では可能であれば common name を記し、その後学名をイタリックで続ける。命名者名は表題、英文要約および要約の中では必要以外省略するが、本文最初の学名には付けてもよい。この場合、「L.」のように省略せず、「Linnaeus」と記す。また本文中の学名の属名は、最初に現れるところでは full name で書き、以後は原則として頭文字1字で表わす。

## 【化学名】

和文原稿中で化学名をあげるときは慣用に従い、カタカナもしくはスモールで書く。また D-, L-

などはスモールキャピタルで書く。化合物の略号は国際慣用に従う。ただし、英文要約、本文、要約のいずれにおいても、最初に現れるところでは略記しない。

## 【人名】

本文中の人名は姓のみを記し、名と敬称は省く。

## 【変数, 統計量】

$x, y$  などの変数と,  $n$  (個体数など),  $P, r, Z, U\text{-test}, t\text{-test}$  などの統計量はイタリックとする。

## 【字体】

イタリックや上付き文字などは下記の例に倣いソフトウェアの機能を用いて入力してください。

イタリック *Pagrus major*

ゴシック **Materials and Methods**

上付き  $\text{cm}^2$

下付き  $\text{NH}_4\text{OH}$

## 【その他の記載様式】

水産増殖の最新号に掲載された論文を参照する。

## 【受理(アクセプト)原稿の電子ファイルの提出要領】

以下に従って作成し、メール添付にて、編集事務局におくる。

- (1) 本文と図と表は別ファイルにする。
- (2) 本文と図の説明はMS-Word, 図は作成したソフトでセーブしたファイル (PowerPoint, Illustratorなど)で保存したもの。
- (3) 表は印刷所でコピー&ペーストをして原稿を作成するので、WordやExcelのファイルで保存したもの。
- (4) それぞれのファイルをPDF化して上記とあわせて送る(元ファイルとPDFの双方を送付)。
- (5) 各電子ファイルは電子メールへの添付、またはCD-Rなどの書き換え不能メディアに記録して編集事務局に送る。